

2023 年度シラバスに関して

新コース移行に伴い、本年度設置されない以下の学科・コースに関しては、シラバスを掲載しないものとする。

■2023 年度に設置されない学科・コース

- ・外国語学科 2 年次
- ・ビジネスコミュニケーション学科 2 年次
- ・東アジア言語学科マルチリンガルビジネスコース 1 年次
- ・東アジア言語学科グローバルコミュニケーションコース 1 年次

また、以下の科目に関しても本年度は開講されないため、シラバスの掲載はない。

■2023 年度に開講されない科目

<外国語学科>

- ・(サブ) 韓国語文法
- ・(サブ) 韓国語総合スキル
- ・(サブ) 韓国語文字・語彙

以上

シラバス

授業科目名：コミュニケーション I		クラス：B1A、F1A	
担当：袴田			
年次：1	期間：1学期間	総時間数：30	単位数：2
授業科目内容			
≪授業の概要と目的≫ 多様化が進む中、他者とどのように関わればいいかわからない、日々の人間関係に悩んでいるという人が多い。自分の言動が周りにどのように受け止められ、また周りにどのような影響を与えているのかを探り、自分のコミュニケーションを俯瞰しながら自分と他者を客観視する練習をし、コミュニケーションの質を高め社会で自分らしく生きる力を養うことを目指す。			
≪到達目標（1年間）≫ ただ言葉のやりとりだけをコミュニケーションと呼ぶのではなく、表情やしぐさなど自分ではそれと気づかないことまで情報として相手に伝わっていることに気付き、コミュニケーションのメカニズムを大きく捉えることにより、コミュニケーションと人間関係の関連について考えるきっかけになることを願う。			
≪授業の進め方と方法≫ タスクや視覚教材を利用し、グループディスカッションを重視したい。自分の思い込みや誤解に気づき、冷静に受け止め、新たにどうあるべきかを探る活動を繰り返すことによって、相手を受け止める力、自分を客観視する力を磨く授業を作っていきたい。			
≪授業計画≫ ①自己紹介、「コミュニケーションとは？」授業の概要と目的の説明 ②第一回「コミュニケーションとは？」エンパシーの重要性 ③第二回「文化への理解」（1）見える文化&見えない文化、自分の常識と非常識 ④第二回「文化への理解」（2）トータルカルチャー&サブカルチャー、多文化ダイアグラム作成／課題1 ⑤第三回「文化の違いに気づく」（1）発想の転換 ⑥第三回「文化の違いに気づく」（2）視覚、環境により起こる錯覚 ⑦復習&第一回理解度テスト ⑧第四回「異文化の認識」思い込み、固定観念 ⑨第四回「異文化の認識」ステレオタイプとは？／課題2 ⑩第五回「世界の価値観」個人主義&集団主義、高文脈主義&低文脈主義 ⑪第五回「世界の価値観」ポリクロニック&モノクロニック、性善説&性悪節 ⑫第六回「非言語コミュニケーション」非言語コミュニケーションの重要性と種類 ⑬第七回「アサーティブ・コミュニケーション」／課題3 ⑭復習&第二回理解度テスト ⑮ビデオ視聴⇒より良いコミュニケーションには何が必要か、自分の気づきなど意見発表			
≪教科書≫ コミュニケーション関連の文献を参考に作成した自作教材			
≪評価の方法≫ 学期内二回実施する理解度テストの結果と授業内の発言、課題の取り組み等を総合的に評価する			
≪備考≫			

授業科目名：社会・経済論		クラス：B1A、F1A	
担当：時安			
年次：1	期間：1学期間	総時間数：30	単位数：2
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
現代の社会と経済についての様々な事象について基礎データをもとに考察する。 さらに、現代企業のビジネスモデルを理解する。			
《到達目標（1年間）》			
ビジネスパーソンとして求められる社会・経済についての基礎知識を身につける。			
《授業の進め方と方法》			
授業プリントに記入しながら基礎事項を確認し、そのうえで実際のケーススタディを行う。			
《授業計画》			
第1課 世界各国のGDP比較 産業の種類 企業の種類			
第2課 企業の利害関係者 企業の組織 企業の社会的責任			
第3課 様々な労働形態 日本の少子高齢化問題 日本で働く外国人労働者			
第4課 日本の税体系 家計の消費支出			
第5課 企業のビジネスモデル分析 ① 垂直統合と水平統合			
第6課 企業のビジネスモデル分析 ② 仲介型プラットフォーム			
第7課 企業のビジネスモデル分析 ③ シェアリング			
第8課 予備			
第9課 企業のビジネスモデル分析 ④ 個人間取引			
第10課 企業のビジネスモデル分析 ⑤ 製造小売 SPA			
第11課 企業のビジネスモデル分析 ⑥ フランチャイズチェーン			
第12課 企業のビジネスモデル分析 ⑦ サブスクリプション			
第13課 企業のビジネスモデル分析 ⑧ 顧客ロックイン			
第14課 行動経済学の事例			
第15課 予備			
《教科書》			
ビジネスモデル SB クリエイティブ			
《評価方法》			
出席率・参加度・プリント作成			

授業科目名：パソコンリテラシー（必修）		クラス：F1A				
担当：杉山						
年次：1	期間：通年	総時間数：150	単位数：10			
授業科目内容						
<p>≪授業の概要と目的≫</p> <p>現代のパーソナルコンピュータの利用法を中心とした講義（演習科目）で、コンピュータの基本利用技術を身につけることを目的とする。ワードやエクセルを使いこなし、情報化社会に対応できるようになるのを目的としている。日商検定取得を目指す。</p>						
<p>≪到達目標（1年間）≫</p> <p>敬称等を適切に使用し、正しくビジネス文書の作成を行う エクセルの基本操作を習得し、2年次での資格試験に備える</p>						
<p>≪授業の進め方と方法≫</p>						
<p>≪授業計画≫</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 10px; vertical-align: top;"> <p>1学期</p> <p>文章の入力 文章の編集 文章内に画像を入れる 描画ツールの使い方 罫線の入力 表作成と表操作 ビジネス文書の作成 まとめ</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 10px; vertical-align: top;"> <p>2学期</p> <p>エクセルの見方 文字と数字の扱い オートフィルについて 行列の修正 数式を使った計算 ビジネス書類作成 グラフ作成</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 10px; vertical-align: top;"> <p>3学期</p> <p>グラフ作成 関数の利用基礎 関数の利用応用</p> </td> </tr> </table>				<p>1学期</p> <p>文章の入力 文章の編集 文章内に画像を入れる 描画ツールの使い方 罫線の入力 表作成と表操作 ビジネス文書の作成 まとめ</p>	<p>2学期</p> <p>エクセルの見方 文字と数字の扱い オートフィルについて 行列の修正 数式を使った計算 ビジネス書類作成 グラフ作成</p>	<p>3学期</p> <p>グラフ作成 関数の利用基礎 関数の利用応用</p>
<p>1学期</p> <p>文章の入力 文章の編集 文章内に画像を入れる 描画ツールの使い方 罫線の入力 表作成と表操作 ビジネス文書の作成 まとめ</p>	<p>2学期</p> <p>エクセルの見方 文字と数字の扱い オートフィルについて 行列の修正 数式を使った計算 ビジネス書類作成 グラフ作成</p>	<p>3学期</p> <p>グラフ作成 関数の利用基礎 関数の利用応用</p>				
<p>≪教科書≫</p> <p>プリント使用</p>						
<p>≪評価の方法≫</p> <p>授業参加度30% 習熟度30% 課題取り組み40%</p>						
<p>≪備考≫</p>						

シラバス

授業科目名：プレゼンテーション技術（1年）		クラス：B1A、F1A	
担当：高木、本多			
年次：1	期間：1学期間	総時間数：30	単位数：2
授業科目内容			
≪授業の概要と目的≫			
パワーポイントを使用するプレゼンテーションの基本事項や技術の習得を目的とする			
≪到達目標（1年間）≫			
パワーポイントの知識、技術、実践を習得することを目標とする			
≪授業の進め方と方法≫			
基本事項の習得時には知識中心で行い、発表主体時には実践を重視する			
≪授業計画≫			
<ol style="list-style-type: none">1. プレゼンテーションの概要と目的2. パワーポイントの基本知識13. パワーポイントの基本知識24. パワーポイントの基本知識35. パワーポイントの基本知識46. 初回発表7. パワーポイントの応用18. パワーポイントの応用29. パワーポイントの応用310. パワーポイントの応用411. 第2回発表12. パワーポイント発表時のスキル113. パワーポイント発表時のスキル214. パワーポイント発表時のスキル315. 最終発表			
≪教科書≫			
特に使用しない（順次プリントを配布する）			
≪評価の方法≫			
毎回の習熟度と発表で評価する			
≪備考≫			

シラバス

授業科目名：プレゼンテーションⅠ（F1年）		クラス：F1A	
担当：高木			
年次：1	期間：	総時間数：30	単位数：2
授業科目内容			
≪授業の概要と目的≫ <p>プレゼンテーションの基本要点の把握と実践練習を通して、技術の習得と向上を目指すことを目的とする</p>			
≪到達目標（1年間）≫ <p>発表の対象把握、工夫、構成、考察、実践の5つの過程を習得することを目標とする</p>			
≪授業の進め方と方法≫ <p>基本事項の習得時には筆記主体で教室巡回を行い、実践技術習得時には個別指導を主とする</p>			
≪授業計画≫ <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションの概要と目的 2. プレゼンテーションにおける基本事項と了解事項 3. プレゼンテーションにおける基本事項と了解事項2 4. 基本事項1 単語と単語の連続と論理性 5. 基本事項1 単語と単語の連続と論理性2 6. 基本事項2 事実文と論拠文と結論文の見分け方1 7. 基本事項2 事実文と論拠文と結論文の見分け方2 8. 基本事項2 事実文と論拠文と結論文の見分け方3 9. 基本事項3 発表対象への工夫 一連想発想法一 10. 基本事項3 発表対象への工夫 一連想発想法と論拠文一 11. 基本事項3 発表対象への工夫 一連想発想法と結論文一 12. 実践1 三段論法を使用するプレゼンテーション作成1 13. 実践1 三段論法を使用するプレゼンテーション作成2 14. 実践1 三段論法を使用するプレゼンテーション作成3 15. 最終発表 			
≪教科書≫ <p>特に使用しない（順次プリントを配布する）</p>			
≪評価の方法≫ <p>提出プリントと最終発表で評価する</p>			
≪備考≫			

シラバス

授業科目名：ビジネス英語（1年）		クラス：High	
担当：田中美弥子, Y. ASSADY, T. BICKEL			
年次：1	期間：通年	総時間数：210	単位数：14
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事で普段出会うような身近な話題について主要な点を理解し、たいいていの事態に英語で 対処することができる。 ・ 英文法を学習し、筋の通った簡単な英文を作成できる。 ・ Reading/Writing/Listening/Speakingの4技能のバランスの取れた向上を目指す。 			
《到達目標（1年間）》			
<ul style="list-style-type: none"> ・ C E F R のB1または実用英語技能検定2級、TOEIC550点相当の英語能力を身に着ける。 			
《授業の進め方と方法》			
<p>各教官は文法・4技能・検定試験対策のどれかを中心項目として指導する。テキストやプリントに沿って講義形式で説明した後、ドリル練習を行い知識の定着を図る。テキストに沿ってペアワーク、グループワーク、リスニング練習を交えながら進める。</p>			
《授業計画》			
<p><1学期></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文法： Tense review ○4技能 (Business Communication Skills) : Meeting people and making conversation / Telephoning / Informal emails etc. ○検定試験対策 <p><2学期></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文法： Tense review ○4技能 (Business Communication Skills) : Presenting a process / Formal letters and emails / Instructions and directions etc. ○検定試験対策 <p><3学期></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文法： Adjective and Adverb ○4技能 (Business Communication Skills) : Interviews / Writing CVs etc. ○検定試験対策 			
《教科書》			
<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Fundamentals of English Grammar (4E)</i> (Pearson Education ESL) ・ <i>The Business 2.0</i> (Macmillan) 			
《評価の方法》			
<p>小テスト、定期試験、提出物、授業時の活動（意欲・関心）などの総合的評価50%、校内試験の結果50%</p>			
《備考》			
<p>《授業の概要と目的》の一部はケンブリッジ大学英語検定機構版CEFRのB1レベル（自立した言語使用者）を参考</p>			

シラバス

授業科目名：ビジネス英語（1年）		クラス：Elementary	
担当：田中もえ子、藤田、K. ROBERTS			
年次：1	期間：通年	総時間数：210	単位数：14
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
<ul style="list-style-type: none"> ・よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを用いて、英語で簡単なやり取りをすることができる。 ・英文法を学習し、文法理解を深める。 ・Reading/Writing/Listening/Speakingの4技能のバランスの取れた向上を目指す。 			
《到達目標（1年間）》			
C E F R の A 1 または実用英語技能検定 3 級相当の英語能力を身に着ける。			
《授業の進め方と方法》			
各教官は文法・4技能・検定試験対策のどれかを中心項目として指導する。テキストやプリントに沿って講義形式で説明した後、ドリル練習を行い知識の定着を図る。テキストに沿ってペアワーク、グループワーク、リスニング練習を交えながら進める。			
《授業計画》			
<1学期> <ul style="list-style-type: none"> ○文法： Be verb / Subjective pronouns / possessive adjectives / imperatives ○4技能 (Business Communication Skills) : Greetings / Feelings / Writing application forms etc. ○検定試験対策 			
<2学期> <ul style="list-style-type: none"> ○文法： Simple present / word order in questions / prepositions ○4技能 (Business Communication Skills) : Jobs / everyday activities / Posing on social media etc. ○検定試験対策 			
<3学期> <ul style="list-style-type: none"> ○文法： modals / present continuous / object pronouns / gerund ○4技能 (Business Communication Skills) : Phone language / the Date / Writing an informal email etc. ○検定試験対策 			
《教科書》			
<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Basic Grammar in Use (4E)</i> (Cambridge University Press) ・ <i>American English File (1)</i> (Oxford University Press) 			
《評価の方法》			
小テスト、定期試験、提出物、授業時の活動（意欲・関心）などの総合的評価50%、校内試験の結果50%			
《備考》			
《授業の概要と目的》の一部はケンブリッジ大学英語検定機構版CEFRのA1（基礎段階の言語使用者）レベルを参考			

授業科目名：韓国語文法		クラス：1年①	
担当：小林範彦、鄭淑然、勝又			
年次： 1	期間：通年	総時間数：150	単位数：10
授業科目内容			
<p>≪ 授業の概要と目的 ≫</p> <p>韓国語文字「ハングル」の認識、発音を身に着ける。基礎の文法の初級～中級或いは中級～上級へシフトできる必要な文法の説明、練習を重ねて、応用ができるようになることを目的とする。</p>			
<p>≪ 到達目標（1年間） ≫</p> <p>韓国語の発音をマスターし、簡単な文を意味を理解し、さらに表現したい文が作れる。 ゼロレベル：1年間でTOPIKⅠ～2級・ハン検5級～4級の取得を目指す。 上のレベル：1年間でTOPIKⅡの3級OR4級、ハングル検定、3級以上</p>			
≪ 授業の進め方と方法 ≫			講義・演習
<p>ゼロレベルの発音部分では3人の講師がテキストをリレー式で担当していく。発音が終わると課ごとの文法の解説、活用を中心とした授業をする</p>			
≪ 授業計画 ≫			
第1学期	第2学期	第3学期	
<p>①の上（ハングル検定3級以上） Easy Korean 3A（テキスト） 第1課～第6課</p> <p>①の下（ゼロレベル）テキスト1A ①～④週 ハングル テキスト 1課～8課（1A）</p> <p style="text-align: center;">< 期末テスト ></p>	<p>①の上（ハングル検定3級以上） 第7～8課（3A） 第1～4課（3B）</p> <p>①の下（ゼロレベル）テキスト1B テキスト 第1課～8課（1B） 第1課（2A）</p> <p style="text-align: center;">< 期末テスト ></p>	<p>①の上（ハングル検定3級以上） 第5～8課（3B）</p> <p>①の下（ゼロレベル）テキスト2A 第2課～第8課（2A）</p> <p style="text-align: center;">< 期末テスト ></p>	
≪ 教科書 ≫			
<p>Easy Korean Academy 『New Easy Korean for foreigners』 1A～2A 2022年（改訂版）ハングルパーク Easy Korean Academy 『New Easy Korean for foreigners』 3A～3B 2022年（改訂版）ハングルパーク</p>			
≪ 評価の方法 ≫			
<p>講師評価（授業参加度、授業態度、課題提出物、小テストなどにより評価する）</p>			
≪ 備考 ≫			

授業科目名：韓国語総合スキル		クラス：1年①	
担当：小林範彦、鄭淑然、勝又			
年次：1	期間：通年	総時間数：最大120	単位数：8
授業科目内容			
<p>《授業の概要と目的》</p> <p>韓国語文字「ハングル」の認識、発音を身に着ける。初級の語彙から始め、中級へスムーズにシフトできるための語彙を増やし、読み、書き、聞きができる総合的な韓国語力を伸ばすのを目的とする。</p>			
<p>《到達目標（1年間）》</p> <p>ゼロレベル：1年間でTOPIK I～2級・ハン検5級～4級の取得を目指す。 上のレベル：1年間でTOPIK IIの3級OR4級、ハングル検定、3級以上</p>			
《授業の進め方と方法》			講義・演習
ゼロレベルの発音部分では3人の講師がテキストをリレー式で担当していく。発音が終わると課ごとの読み・書き・聞きを重点的に進めていく			
《授業計画》			
第1学期	第2学期	第3学期	
<p>①の上（ハングル検定3級以上） Easy Korean 3A（テキスト） 第1課～第6課</p> <p>①の下（ゼロレベル）テキスト1A ①～④週 ハングル テキスト 1課～8課（1A）</p> <p style="text-align: center;">＜期末テスト＞</p>	<p>①の上（ハングル検定3級以上） 第7～8課（3A） 第1～4課（3B）</p> <p>①の下（ゼロレベル）テキスト1B テキスト 第1課～8課（1B） 第1課（2A）</p> <p style="text-align: center;">＜期末テスト＞</p>	<p>①の上（ハングル検定3級以上） 第5～8課（3B）</p> <p>①の下（ゼロレベル）テキスト2A 第2課～第8課（2A）</p> <p style="text-align: center;">＜期末テスト＞</p>	
《教科書》			
<p>Easy Korean Academy 『New Easy Korean for foreigners』 1A～2A 2022年（改訂版）ハングルパーク Easy Korean Academy 『New Easy Korean for foreigners』 3A～3B 2022年（改訂版）ハングルパーク</p>			
《評価の方法》			
<p>講師評価50%（授業参加度、授業態度、課題提出物、小テストなどにより評価する） 校内試験の結果50%</p>			
《備考》			

授業科目名：韓国文化と社会		クラス：1年	
担当：鄭淑然、小林範彦、勝又			
年次：1	期間：通年	総時間数：75	単位数：5
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
<p>韓国の食文化、伝統韓服と住宅、伝来童話、教育制度などを通じて韓国社会、文化を理解する。</p>			
《到達目標（1年間）》			
<p>韓国の文化と社会の理解度を深めて、韓国語学習の達成度を高める。</p>			
《授業の進め方と方法》			
<p>テキスト、写真と動画、実習、翻訳等の方法で進めていく。</p>			
《授業計画》			
<p>1学期- 食文化</p> <p>①代表的な食べ物の由来と歴史</p> <p>②家庭料理</p> <p>③民俗祝日の食べ物</p> <p>④調理実習、実食体験</p> <p>2学期- 衣服・住宅の文化</p> <p>①伝統韓服</p> <p>②伝統家屋の構造</p> <p>③現在の住宅事情</p> <p>④伝統韓服の実体験</p> <p>3学期- 伝来童話、教育制度</p> <p>①昔話、童謡</p> <p>②伝統遊び</p> <p>③教育制度- 学校、塾、</p> <p>④早期留学、大学受験</p>			
《教科書》			
<p>参考書：韓国伝統文化辞典、文化の中の韓国語</p>			
《評価の方法》			
<p>出席、授業態度、課題、テスト等による総合評価</p>			
《備考》			
<p>担当先生によって、内容が一部変わる可能性がある。</p>			

授業科目名：韓国語会話		クラス：1年①	
担当：小林範彦、鄭淑然、勝又			
年次：1	期間：通年	総時間数：90	単位数：6
授業科目内容			
≪授業の概要と目的≫ 韓国語文字「ハングル」の認識、発音を身に着ける。簡単なあいさつから始め、ある程度難易度のある言葉も表現の取得と話せることを目的とする。			
≪到達目標（1年間）≫ 韓国語の発音をマスターし、課ごとの内容が言えると同時に、応用会話ができること			
≪授業の進め方と方法≫			講義・演習
ゼロレベルの発音部分では3人の講師がテキストをリレー式で担当していく。発音が終わると課ごとの単語・文型の読み、話し、さらに応用会話などをしていく。			
≪授業計画≫			
第1学期	第2学期	第3学期	
①の上（ハングル検定3級以上） 慣用句から抜粋 漢字成語から抜粋 熟語から抜粋			
①の下（ゼロレベル）テキスト1A ①～④週 ハングル テキスト 1課～8課（1A） <期末テスト>	①の下（ゼロレベル）テキスト1B テキスト 第1課～8課（1B） 第1課（2A） <期末テスト>	①の下（ゼロレベル）テキスト2A 第2課～第8課（2A） <期末テスト>	
≪教科書≫ Easy Korean Academy 『New Easy Korean for foreigners』1A～2A 2022年（改訂版）ハングルパーク 参考書 [살아있는 한국어] の慣用句、漢字成語、熟語シリーズ			
≪評価の方法≫ 講師評価（授業参加度、授業態度、課題提出物、小テストなどにより評価する）			
≪備考≫			

授業科目名：中国語 文法		クラス：1年①	
担当：兪虹・楊玲・名倉仁美・小林蓮佳・山本勉			
年次： 1	期間：通年	総時間数：150	単位数：10
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
中国語の読みとなるピンインからスタートし、基本となる、文字語彙を確実に読めて、理解すると同時に、中国語の文法ルールを身に着け、さらに、中国語で表現できるようにする。			
《到達目標（1年間）》			
HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi = 中国語レベル試験) H2の取得 初級の文字・語彙・文法をマスターすること ※H1（初級）～H6（上級）			
《授業の進め方と方法》			講義・演習
1～2カ月間をかけて中国語の基礎となるピンイン（発音）をリレー式で学び、ピンインの学習が終わったら、担当の先生が教科書に沿って課ごとの文字語彙・文法の学習・練習を進めていく。			
《授業計画》			
第1学期	第2学期	第3学期	
第1週～第4週 ピンイン、声調 H1 1課～4課 第5週～第7週 H1 5課～7課 第8週～第10週 H1 8課～10課 第11週～第13週 H1 11課～13課 第14週～第15週 H1 14課～15課 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第3週 H2 1課～3課 第4週～第6週 H2 4課～6課 第7週～第9週 H2 7課～9課 第10週～第12週 H2 10課～12課 第13週～第15週 H2 13課～15課 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第3週 H3 1課～2課 第4週～第6週 H3 3課～4課 第7週～第9週 H3 5課～6課 第10週 予備週 ※ 課ごとの小テストあり	
《教科書》			
『標準教程 STANDARD COURSE HSK 1』北京語言大学出版社 『標準教程 STANDARD COURSE HSK 2』北京語言大学出版社 『標準教程 STANDARD COURSE HSK 3』北京語言大学出版社			
《評価の方法》			
教師評価（小テスト、出席、授業態度、提出物などによる評価）			
《備考》			

授業科目名：中国語総合スキル		クラス：1年①	
担当：兪虹・楊玲・名倉仁美・小林蓮佳・山本勉			
年次： 1	期間：通年	総時間数：120	単位数：8
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
中国語の読みとなるピンインからスタートして、文字・語彙の聞き取りから文の聞き取り、既習した内容活用した、総合的な力を伸ばすことを目的とする。			
《到達目標（1年間）》			
HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi = 中国語レベル試験) H2の取得 初級の会話ができること ※H1（初級）～H6（上級）			
《授業の進め方と方法》			講義・演習
1～2カ月間をかけて中国語の基礎となるピンイン（発音）をリレー式で学び、ピンインの学習が終わったら、担当の先生が教科書に沿って課ごとの文法、文字・語彙を活用した総合的な学習を進めていく。			
《授業計画》			
第1学期	第2学期	第3学期	
第1週～第4週 ピンイン、声調 第5週～第8週 テキスト1 第1課～第3課 第9週～第12週 テキスト1 第4課～第5課 第13週～第15週 テキスト1 第6課～第7課 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第4週 テキスト1 第8課～第9課 第5週～第8週 テキスト1 第10課～第11課 第9週～第12週 テキスト1 第12課～第13課 第13週～第14週 テキスト1 第14課 第15週 予備週 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第3週 テキスト1 第15課 第4週～第6週 テキスト2 第1課、第2課 第7週～第9週 テキスト2 第3課、第4課 第10週 予備週 ※ 課ごとの小テストあり	
《教科書》			
Yamin Ma Xinying Li「轻松学中文」第二版 英文版 北京语言大学出版社			
《評価の方法》			
教師評価50%（小テスト、出席、授業態度、提出物などによる評価） 校内試験50%			
《備考》			

授業科目名：中国文化と社会		クラス：1年①	
担当： 山本 勉			
年次： 1	期間：通年	総時間数：75	単位数：5
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
<p>言葉はその国の文化の影響を受けている。言葉の裏側にある文化を深く知ることによってはじめて中国語が自分の言葉となる。「中国文化」の授業をとおして、中国で暮らす人々の生活や文化を理解し生きた中国語を身につける礎とし、自国の文化を客観的にとらえることができる素地を養うことを目的とする。</p>			
《到達目標（1年間）》			
<p>「中国語」という言語の裏側にある中国の文化や中国人の考え方を理解する。</p>			
《授業の進め方と方法》			
<p>目標を達成するために、中国や中国人について以下の授業計画に沿って様々な観点から多面的にとらえることができるよう授業を展開する。</p>			
《授業計画》			
<p>第一章 中国と中国人 第二章 中国語と日本語 第三章 中国の食文化 第四章 中国の少数民族と伝統芸能 第五章 私たちの生活に息づく中国のことわざ・成語 第六章 中国の文化遺産・名所旧跡の旅 第七章 日本語の表現を豊かにする漢詩 第八章 中国の節句と文化 第九章 中国の春節（お正月） 第十章 中国語と中国各地の方言 第十一章 中国語に親しむ 中国の歌 第十二章 中国の文化（まとめ）</p>			
《教科書》			
<p>各分野・項目ごとの資料を作成し配布する。</p>			
《評価の方法》			
<p>授業態度・出欠席・課題等により総合的に評価を行う。</p>			
《備考》			
<p>授業において、感染対策に留意して、中国茶の体験を実施する。</p>			

授業科目名：中国語 会話		クラス：1年①	
担当：兪虹・楊玲・名倉仁美・小林蓮佳・山本勉			
年次： 1	期間：通年	総時間数：90	単位数：6
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
中国語の読みとなるピンインからスタートして、文字・語彙の聞き取りから文の聞き取り、既習した内容活用した、総合的な会話力を伸ばすことを目的とする。			
《到達目標（1年間）》			
HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi = 中国語レベル試験) H2の取得 初級の会話ができること ※H1（初級）～H6（上級）			
《授業の進め方と方法》			講義・演習
1～2カ月間をかけて中国語の基礎となるピンイン（発音）を習い、会話を中心としたテキストで課ごと進めていく。			
《授業計画》			
第1学期	第2学期	第3学期	
第1週～第4週 ピンイン、声調 H1 1課～4課 第5週～第7週 H1 5課～7課 第8週～第10週 H1 8課～10課 第11週～第13週 H1 11課～13課 第14週～第15週 H1 14課～15課	第1週～第3週 H2 1課～3課 第4週～第6週 H2 4課～6課 第7週～第9週 H2 7課～9課 第10週～第12週 H2 10課～12課 第13週～第15週 H2 13課～15課	第1週～第3週 H3 1課～2課 第4週～第6週 H3 3課～4課 第7週～第9週 H3 5課～6課 第10週 予備週	
《教科書》			
『標準教程 STANDARD COURSE HSK 1』北京語言大学出版社 『標準教程 STANDARD COURSE HSK 2』北京語言大学出版社 『標準教程 STANDARD COURSE HSK 3』北京語言大学出版社			
《評価の方法》			
教師評価（小テスト、出席、授業態度、提出物などによる評価）			
《備考》			

授業科目名：中国語 文法		クラス：1年（サブ科目）	
担当：兪虹・小林蓮佳・山本勉・楊			
年次：1	期間：通年	総時間数：75	単位数：5
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
中国語の読みとなるピンインからスタートし、基本となる、文字語彙を確実に読めて、理解すると同時に、中国語の文法ルールを身に着け、さらに、中国語で表現できるようにする。			
《到達目標（1年間）》			
HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi = 中国語レベル試験) H1かH2の取得 簡単な中国語の文が作れる。 ※H1（初級）～H6（上級）			
《授業の進め方と方法》			講義・演習
1～2カ月間をかけて中国語の基礎となるピンイン（発音）を学び、教科書に沿って、課ごとの文法の説明と活用を中心に進めていく。			
《授業計画》			
第1学期	第2学期	第3学期	
第1週～第4週 ピンイン、声調 簡単な挨拶 第5週～第8週 H1 1課～6課 第9週～第12週 H1 7課～10課 第13週～第15週 H1 11～12課と予備週 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第3週 H1 12課～15課 第4週～第6週 H2 1課～3課 第7週～第9週 H2 4課～6課 第10週～第12週 H2 7課～9課 第13週～第15週 H2 10課～12課 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第5週 H2 13課～15課 第6週～第10週 H2 復習と調整週 ※ 課ごとの小テストあり	
《教科書》			
『標準教程 STANDARD COURSE HSK 1』北京語言大学出版社 『標準教程 STANDARD COURSE HSK 2』北京語言大学出版社			
《評価の方法》			
教師評価（小テスト、出席、授業態度、提出物などによる評価）			
《備考》			

授業科目名：中国語 総合スキル		クラス：1年（サブ科目）	
担当：兪虹・小林蓮佳・山本勉・楊			
年次：1	期間：通年	総時間数：75	単位数：5
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
中国語の読みとなるピンインからスタートし、初級の文字・語彙・文法を活用して、総合的な中国語を伸ばす			
《到達目標（1年間）》			
HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi = 中国語レベル試験) H1かH2の取得 初級の中国語が読めて、書けて、さらに話せる ※H1（初級）～H6（上級）			
《授業の進め方と方法》			講義・演習
1～2カ月間をかけて中国語の基礎となるピンイン（発音）を学び、教科書に沿って、課ごとの文字語彙、文法の活用を中心に進めていく。			
《授業計画》			
第1学期	第2学期	第3学期	
第1週～第4週 ピンイン、声調 簡単な挨拶 第5週～第8週 H1 1課～6課 第9週～第12週 H1 7課～10課 第13週～第15週 H1 11～12課と予備週 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第3週 H1 12課～15課 第4週～第6週 H2 1課～3課 第7週～第9週 H2 4課～6課 第10週～第12週 H2 7課～9課 第13週～第15週 H2 10課～12課 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第5週 H2 13課～15課 第6週～第10週 H2 復習と調整週 ※ 課ごとの小テストあり	
《教科書》			
『標準教程 STANDARD COURSE HSK 1』北京語言大学出版 『標準教程 STANDARD COURSE HSK 2』北京語言大学出版			
《評価の方法》			
教師評価50%（小テスト、出席、授業態度、提出物などによる評価） 校内試験50%			
《備考》			

授業科目名：中国語 文字・語彙		クラス：1年（サブ科目）	
担当：兪虹・小林蓮佳・山本勉・楊			
年次：1	期間：通年	総時間数：60	単位数：4
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
中国語の読みとなるピンインからスタートし、基本となる、文字語彙を確実に読めて、理解できる			
《到達目標（1年間）》			
HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi = 中国語レベル試験) H1かH2の取得 文字語彙が読めて、書ける ※H1（初級）～H6（上級）			
《授業の進め方と方法》			講義・演習
1～2カ月間をかけて中国語の基礎となるピンイン（発音）を学び、教科書に沿って、課ごとの文字語彙、本文説明を中心に進めていく。			
《授業計画》			
第1学期	第2学期	第3学期	
第1週～第4週 ピンイン、声調 簡単な挨拶 第5週～第8週 H1 1課～6課 第9週～第12週 H1 7課～10課 第13週～第15週 H1 11～12課と予備週 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第3週 H1 12課～15課 第4週～第6週 H2 1課～3課 第7週～第9週 H2 4課～6課 第10週～第12週 H2 7課～9課 第13週～第15週 H2 10課～12課 ※ 課ごとの小テストあり	第1週～第5週 H2 13課～15課 第6週～第10週 H2 復習と調整週 ※ 課ごとの小テストあり	
《教科書》			
『標準教程 STANDARD COURSE HSK 1』北京語言大学出版社 『標準教程 STANDARD COURSE HSK 2』北京語言大学出版社			
《評価の方法》			
教師評価（小テスト、出席、授業態度、提出物などによる評価）			
《備考》			

シラバス

授業科目名：教養数学（自由選択）	クラス：1年2年		
担当：高木			
年次： 1 / 2	期間：集中	総時間数：最大30/30	単位数：最大2/2
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
日本留学生試験対策、その他の試験または就職活動の対策を目的とする。受講生1人1人にそれぞれに対応する。基礎確認問題、応用問題、実践問題と徐々にレベルを挙げながら、講義形式と演習形式を交互に行う。			
《到達目標》			
試験合格を到達目標とする			
《授業の進め方と方法》			
基礎の確認、復習、基本の講義と演習、実際の試験を想定した問題の講義と演習へと進める。講義と演習を交互に行う。			
《授業計画》			
学生1人1人に対応するため、授業計画は個別に対応する			
《教科書》			
日本留学生試験過去問題集、SPI試験対策問題集、数検準2級対策本等。ただし、学生にはコピー等を配布するので用意する必要はない。			
《評価の方法》			
毎回の課題提出、テストなどで評価する。			
《備考》			

シラバス

授業科目名：【外国語海外研修】（自由選択）		クラス：	
担当：			
年次： 1 / 2	期間：集中	総時間数：最大60/60	単位数：最大2/2
授業科目内容			
《授業の概要と目的》 既習の知識や技能を用いて、学習言語の運用能力の向上を目指す。語学学習に加え、観光など通じ現地の歴史・文化・人に触れることによって、研修国についての理解を深める。			
《到達目標》 ・学習言語を用いて生活することができる。 ・異文化交流を行い、研修国について理解できる。			
《授業の進め方と方法》 原則、長期休暇中に本校と提携している学校の短期語学研修プログラムに参加する。			
《授業計画》 参加希望者を募集する際に日程と内容の詳細を知らせる。 本校と提携している学校などの短期語学研修プログラムに参加し、修了証や成績表などのコピーと報告書を提出する。 主な研修先 英語：フィリピン 中国語：北京、台湾 韓国語：ソウル、プサン			
《教科書》 各研修機関により異なる。			
《評価の方法》 研修期間や時間数により単位の認定は行うが、学内評価は行わない。			
《備考》			

シラバス

授業科目名：インターンシップ（自由選択）		クラス：	
担当：山西			
年次： 1 / 2	期間：集中	総時間数：最大30/30	単位数：最大1/1
授業科目内容			
《 授業の概要と目的 》 仕事を体験することで、職業に対する理解を深める。			
《 到達目標 》 社会人として必要なことを体験を通して身につける。 報告書が書けるようになる。			
《 授業の進め方と方法 》			
《 授業計画 》 参加希望者を募集する際に日程と内容の詳細を知らせる。 事前説明 ↓ インターンシップ参加 ↓ 報告書提出 ↓ 報告会			
《 教科書 》			
《 評価の方法 》 単位の認定は行うが、評価はしない。			
《 備考 》			

シラバス

授業科目名：日本語【対策】（自由選択）	クラス：		
担当：青山、堀場、勝又、時安、永井			
年次： 1 / 2	期間：集中	総時間数：最大120/90	単位数：最大8/6
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
日本語能力試験に合格することを目的とし、主に読解対策を行う。			
《到達目標》			
日本語能力試験に合格すること。			
《授業の進め方と方法》			
問題を解き、それに対する解説を行う。			
《授業計画》			
履修希望者を募集する際に日程と内容の詳細を知らせる。			
《教科書》			
履修希望者を募集する際に知らせる。			
《評価の方法》			
出席、取り組み、模擬試験の結果などを総合的に評価する			
《備考》			

シラバス

授業科目名：英語【対策】（自由選択）		クラス：	
担当：田中、藤田、小林			
年次： 1 / 2	期間：集中	総時間数：最大75/60	単位数：最大5/4
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
<ul style="list-style-type: none"> ・英検に合格すること、TOEICで高得点を取ることを目的とし、試験対策を行う。 ・実用英語技能検定（英検）およびTOEIC Listening&Readingの受験に向け、対策を行う。 			
《到達目標》			
<p>英検を受け、受験級に合格できる。</p> <p>TOEICで高得点（650点以上）を取得することができる。</p>			
《授業の進め方と方法》			
<p>演習形式で各試験の問題を解き、その後解説を行う。</p>			
《授業計画》			
<p>受講希望者を募集する際に日程と内容の詳細を知らせる。</p>			
《教科書》			
<p>受講希望者を募集する際に知らせる。</p>			
《評価の方法》			
<p>出席、取り組み、模擬試験の結果などを総合的に評価する</p>			
《備考》			
<p>受講希望者 3 名以上で開講</p>			

シラバス

授業科目名：中国語【対策】（自由選択）	クラス：		
担当：兪虹、小林蓮佳、楊玲、名倉			
年次： 1 / 2	期間：集中	総時間数：最大75/60	単位数：最大5/4
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
HSKに合格することを目的とし、試験対策を行う。			
《到達目標》			
HSKに合格すること。			
《授業の進め方と方法》			
問題を解き、それに対する解説を行う。			
《授業計画》			
履修希望者を募集する際に日程と内容の詳細を知らせる。			
《教科書》			
履修希望者を募集する際に知らせる。			
《評価の方法》			
出席、取り組み、模擬試験の結果などを総合的に評価する			
《備考》			

シラバス

授業科目名：韓国語【対策】（自由選択）		クラス：	
担当：鄭淑然			
年次： 1 / 2	期間：集中	総時間数：最大75/60	単位数：最大5/4
授業科目内容			
《授業の概要と目的》			
ハングル検定または、S-TOPIKに合格することを目的とし、試験対策を行う。			
《到達目標》			
ハングル検定に合格すること。 S-TOPIKに合格すること。			
《授業の進め方と方法》			
問題を解き、それに対する解説を行う。			
《授業計画》			
履修希望者を募集する際に日程と内容の詳細を知らせる。			
《教科書》			
履修希望者を募集する際に知らせる。			
《評価の方法》			
出席、取り組み、模擬試験の結果などを総合的に評価する			
《備考》			

教育課程表

23.04.05

外国語学科

科目区分	必修・ 選択の 別	授業科目	1学年 年間合 計時間	1学 年 単 位	2学年 年間合 計時間	2学 年 単 位	授業時 間 合計	単位数 合計
専門 科目	必修	コミュニケーションⅠ	30	2	0	0	30	2
		コミュニケーションⅡ	0	0	15	1	15	1
		社会・経済論	30	2	0	0	30	2
		異文化論	0	0	30	2	30	2
		地域産業論	0	0	30	2	30	2
		パソコンリテラシー	150	10	0	0	150	10
		オフィスIT技術	0	0	150	10	150	10
		プレゼンテーション技術	30	2	0	0	30	2
		プレゼンテーションⅠ	30	2	0	0	30	2
	プレゼンテーションⅡ	0	0	30	2	30	2	
	選択必修 (注1)	ビジネス英語	210	14	195	13	405	27
		韓国語文法	150	10	150	10	300	20
		韓国語総合スキル	120	8	120	8	240	16
		韓国文化と社会	75	5	75	5	150	10
		韓国語会話	90	6	90	6	180	12
		(サブ)韓国語文法	75	5	60	4	135	9
		(サブ)韓国語総合スキル	75	5	75	5	150	10
		(サブ)韓国語文字・語彙	60	4	60	4	120	8
		中国語文法	150	10	150	10	300	20
		中国語総合スキル	120	8	120	8	240	16
		中国文化と社会	75	5	75	5	150	10
		中国語会話	90	6	90	6	180	12
		(サブ)中国語文法	75	5	60	4	135	9
		(サブ)中国語総合スキル	75	5	75	5	150	10
		(サブ)中国語文字・語彙	60	4	60	4	120	8
	自由 選択 (注2) (注3)	教養数学	30	2	30	2	60	4
		英語研修	60	4	60	4	120	8
		中国語研修	60	4	60	4	120	8
		韓国語研修	60	4	60	4	120	8
		インターンシップ	30	2	30	2	60	4
		日本語検定対策	120	8	90	6	210	14
		英語検定対策	75	5	60	4	135	9
		中国語検定対策	75	5	60	4	135	9
		韓国語検定対策	75	5	60	4	135	9

卒業に必要な総授業時間数	870	58	870	58	1740
--------------	-----	----	-----	----	------

注1: 選択必修として2言語を選択し、第1学年に40単位以上、第2学年に41単位以上を履修すること。

注2: 自由選択科目には長期休暇中などに実施されるものもある。

注3: 外国語検定対策以外の自由選択科目は、1年次または2年次のいずれかで履修すること。